

理学系研究科大学院男子学生を対象とした  
「男女共同参画」に関するアンケート 集計結果  
(平成15年11月20日実施、12月5日回収)

専攻	物理	天文	地惑	化学	生科	生化	無回答	計
回答数	42	17	70	26	47	16	3	221
学生数	399	79	290	180	102	137		1187
回答率 (%)	11	22	24	14	46	12		19

質問事項

- A. 回答者の身分等の情報
- B. 女子大学院生の比率について
- C. 女性教官比率について
- D. 学内の施設・環境について
- E. 女性の社会参画について
- F. 進路等について
- G. 男女共同参画について

無回答

# A. 身分等

1) 学年



2) 未既婚



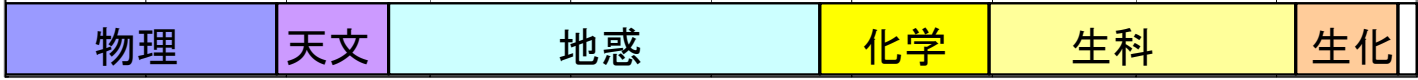
3) 子供の人数



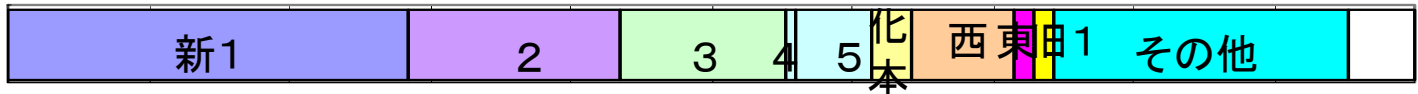
4) 家族形態



5) 所属専攻



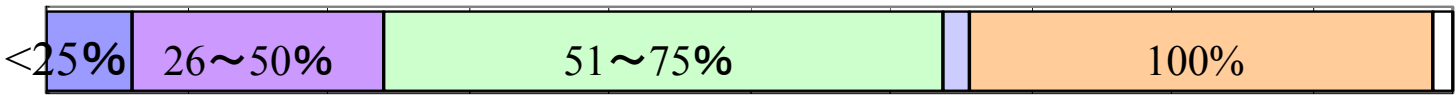
6) 日常的に研究に使用している建物



7) 経済状況



8) 高校時代の学校での男性比率



パートナーのサポート

9) 大学の所属学科(学部)での男性比率



10) 所属研究室の女子大学院生比率



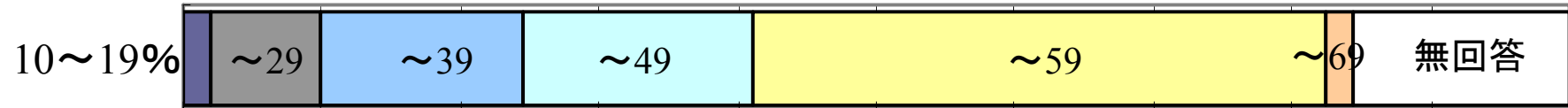
## B. 女子大学院生の比率について

11) 所属専攻における女子大学院生の比率は低過ぎるか？

無回答



12) 女子大学院生比率を高める場合の程度



13) 学生の女性比率が低い場合、院生の教育・研究指導に影響を及ぼすか？



14) それは女子大学院生にとってPositiveな影響か？



15) それは男子大学院生にとってPositiveな影響か？



16) 教育・研究に関して、男性であるために優遇されていると感じたことがあるか？



YESの場合、それはどのような時か？

- 自分が男性という多数派のグループに入ることができる。
- 多くの女子大学院生は毎日帰宅するよう強く指導されている。
- 将来を見据えて厳しく指導してもらえる。女性だとそこまで厳しくされるとやめてしまう人が多いから、必ずしも厳しい指導を受けられるわけではない。

17) 教育・研究に関して、男性であるために冷遇されていると感じたことがあるか？



YESの場合、それはどのような時か？

- 厳しい。
- 同じ事をやっても男性と女性では上の人からの扱われ方が違う。
- 教授は男性であることが多いので女学生に甘い。
- 最近男女比率を50%にしようとする意図かはわからないが、財政金や人事など女性が通やすくなっている(元的人数が少ないのに)。

18) 優遇・冷遇される原因の一つは女子大学院生が少ないためであるか？



YESの場合、それはどのような時か？

- 同じ事をやっても男性と女性では上の人からの扱われ方が違う。
- 女子学生が少ない上に、研究の道に残る数も少ないから、指導者も経験不足で試行錯誤だと思う。

## 19) その他, 研究・教育に関連して上記以外の男女差にかかわる問題.

○教官等が女子学生を特別扱いするケースが目立つ印象を受けます。状況によっては必要ですが、基本的には男女問わず「研究者／学生」として扱うべきと考えます。教官／スタッフの個性にも依りますし、女子学生が少ない事も原因だと思えます。男子から見れば問題ではありませんが、むしろ女子学生にとって良い事とは思えません。

○女子大学院生の比率が低いあるいは研究室によってかたよっているため、女子大学院生への教育を不得手とする教官が若干名いる。また、それが研究室による偏りをさらに進行させている。

○各国に比し、日本では理科系の女性比率の低さから学生、特に大学進学前の男子高校生に理科系を敬遠する傾向が強いように思われます。このままでは日本は、有能な人材を文科系だけに偏らせ、これまでの技術水準を保つ事は困難と思えます。

○女性教授が少ない事です。

○どちらかの性別が多くなると必然的にそのコミュニティの体質が多いほうに傾く傾向があり、少ない方の性別の人にとってはやりづらい面があると思う。

○女子学生はOvernightの実験が必要な場合に仮眠できる場所が少ない。

○重いものを持たされる。

○大学院生の段階では男女の差はないように思う。問題は就職の困難や就職後のキャリアなのだと思う。

○在学中は女性であることが優遇につながることもあるが、職を得る段階になると逆になるように見える。

○基本的に好き嫌いで選ばれる学部なので女が少ないのは女がそれが嫌いなだけで問題なしと思う。

○大学院等の場合より前の高校などでの段階における教育なども影響が大きいと思う。

○すぐ米英を参考にするのは如何なものかと思う。

○もし「～人以上は必ず女性を入れる」というような決まりを作ったら、もはや実力競争ではなく、女性優遇社会になってしまうと思う。

## C. 女性教官比率について

20) 世界各国と比べて日本の理学系研究科の女性教官比率が低いことの認知



21) 女性教官が少ないことは、教育上問題がある



YESの場合、それはどのような場合か？

- 女子生徒にとっては女性教官でなければ相談出来ないことがある。
- 女性研究者が育ちにくい。すなわち有能な人材が伸びにくい女性にとってrole modelがない。
- 女性教官が少ないために、より一層女子院生へのケアを怠り、ますます女性教官が生まれにくくなる負のフィードバックが起こる。
- 社会学、教育学などの文学と違い、自然科学では問題はないが、Field調査などで女子学生への配慮が行き届かない問題はある。
- 学生に対する接し方。最近問題になっているセクハラなど。
- 男性教官と相性の良くない人の教育を阻むかもしれない。
- 教育上というよりも、女性が理系を選択しにくい社会的風潮に問題がある。
- マスコミなどを通じて教官は男がなるもの、というイメージを人々(特に子供)に植え付けるという問題。
- 女性で自然科学に興味を持つ人が少なくなるかもしれない。
- 多様な価値観が認められない。考え方が偏ると思う。
- 教育方針や研究に対する考え方が男性の中で多いものに偏りがちになると考えられる(他1件)。
- 場合による。女性、男性がやりたがらない分野もある。身体的にもそうだし、思想／信条の問題もある。
- 女性の方が研究を行う環境(設備、生活との兼ね合い等)に配慮するので、男性ばかりでは環境改善を成し遂げにくい。

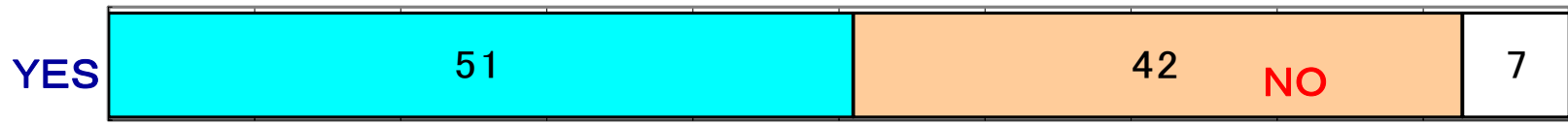
## 22) 女性教官が少ないことは、研究を発展させる上で問題がある



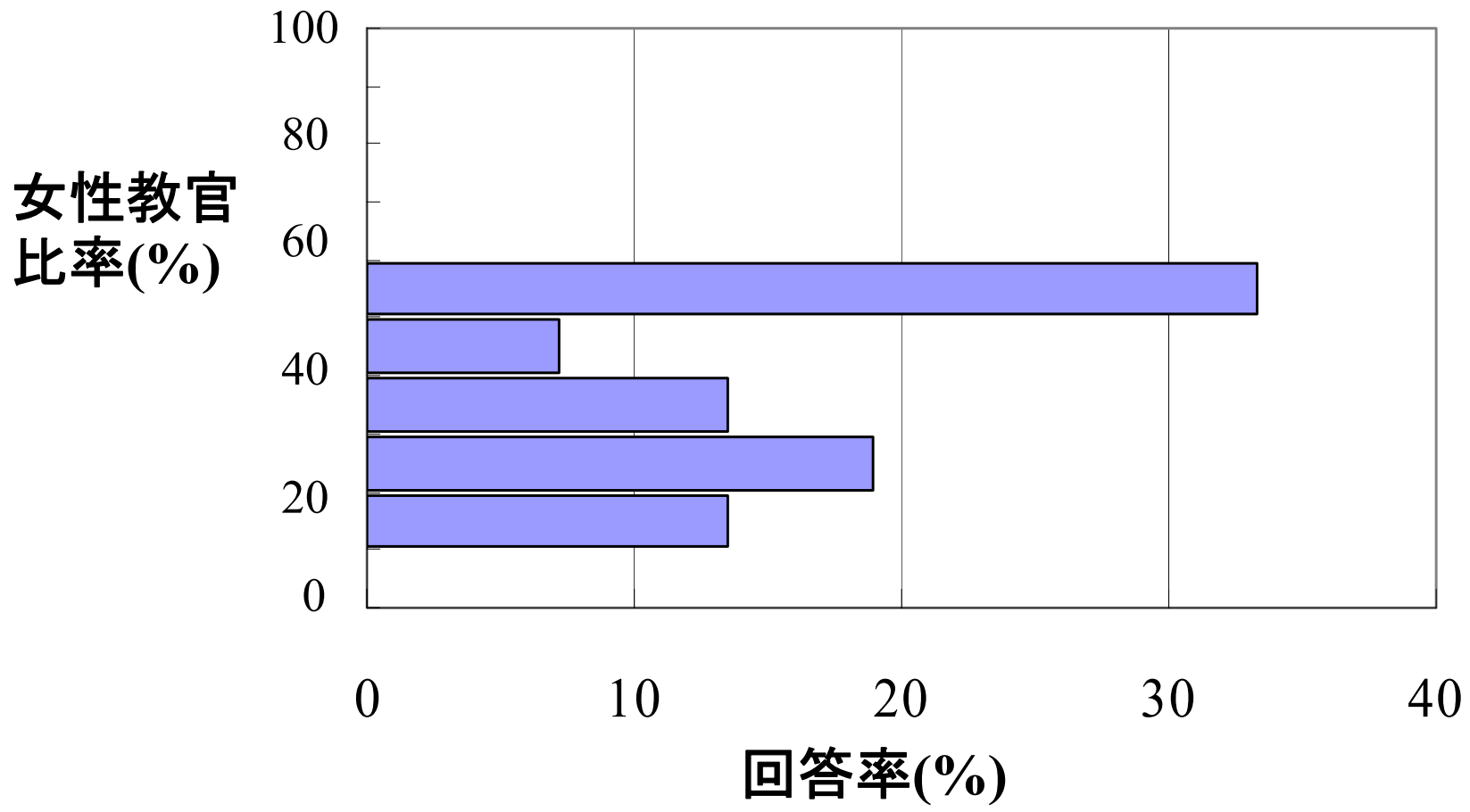
### YESの場合、それはどのような場合か？

- 研究に進む意欲を女子学生が失う。女性研究者が育ちにくくなる。
- 研究は個々人の資質、センスに強く依拠する為、有能な女性を研究者にならないのは惜しまれる。
- 女性云々というより、幅広いアイデアを取り込めないという点で問題になってくると思う。
- 少子化が進む中、日本で科学研究に興味を持ってくれるこれからの人材は大切に育てる必要があるのに、社会の半数を占める女性への門戸を閉ざしている現状は良くないと思う。
- 少ないのが問題というか、少なくさせる原因を取り払って、多くの人材が研究職に集まるようにした方が、研究が発展すると思う。
- 有能な女性研究者が研究以外の要因でストレスを感じる事はマイナス。
- 誰が研究を発展させるかは性別で決められるものではない。
- 研究における着眼点多様性が制限されること。
- 女性が得意な分野というのは確かに存在する。また、女性教官が少ない事は女子の学生を遠ざけることにもなり、女性の意見が(税金で行う)研究に反映されにくくなる。
- 女性と男性とでは考え方が異なるので均等でなければ偏ってしまうと思われる。
- 大学社会や研究課題に、生活に密着した女性ならではの視点が反映されることは、研究を豊に発展させる上では重要だと思います。
- 有能な研究者および研究内容が性別によって不当に低く評価されている可能性がある。
- 女性教官が少ないというのは女性研究者の研究環境が良くないという事だと思う。

### 23) 女性教官比率を高めるべきだと思う



### 24) 女性教官比率を高める場合の程度





## D.学内の施設・環境について

25)施設や建物設備について、男女が共に学ぶ場として困る点や改善すべき点がある

YES

15

82

NO

3

YESの場合、それはどのような場合か？

- トイレのスペースに男女比があるようだ。女子トイレは少ないかもしれない。
- 逆に男子の方が更衣室等も無く、トイレの設備も古く(女子はウォシュレットなど)不利益をこうむっている。
- 男性用トイレの個室の比率が少ないように思います。個室しか使わない人も結構いるとおもいます。
- 男性用トイレの小便器が廊下から丸見えになって恥ずかしい。
- 女子トイレだけ暖房便座にするのはおかしい。
- 女性の清掃員が入ってこられるのは困る。
- トイレ、シャワー等は比較的満足している。
- 更衣室が必要。
- 仮眠室が必要。
- シャワー室は女性が使いやすい雰囲気ではないと思います。(汚い、プライバシーが保たれにくい)。
- 夏、クーラーが切れた後やシャワーの後に上半身裸でいられない。
- 男性の中には極端にデリカシーの低い者がいるもので、そういう者が研究室や他の生活空間を不衛生、不清潔にしてしまう。この傾向は女性に一番嫌われるのではないか。
- 小さな部屋に数名、男女混合というのはパーソナリティによっては息がつまるかもしれません。院生室は極力大きな部屋がいいと思う。
- エレベーターがないので女性が物を運ぶのが大変かもしれない。

## 26) 施設や設備以外の面について、男女が共に学ぶ場として困る点や改善すべき点がある

YES

12

84

NO

5

### YESの場合、それはどのような場合か？

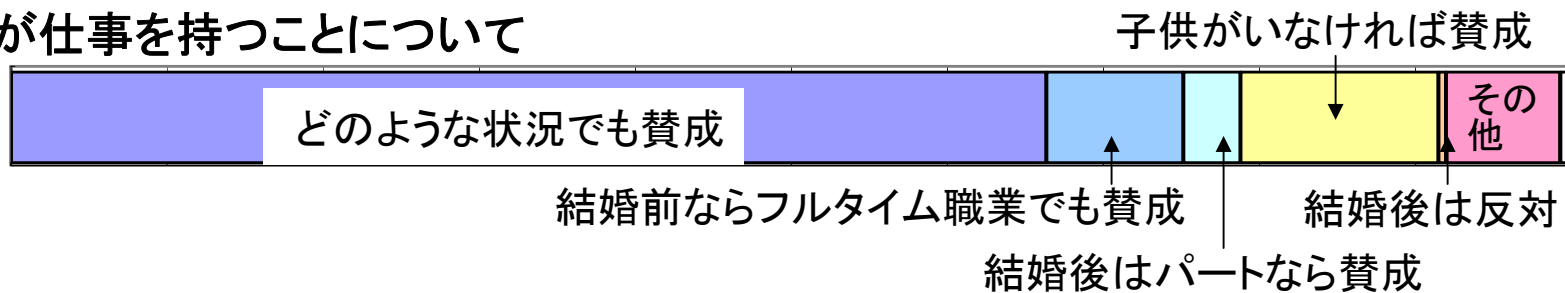
- 夜間、安全。○夜間の安全監視は行き届いているとは言い難い。
- 研究所内が夜間とても暗い。○大学から駅までの経路に暗く人気のない所がある。
- 何かあった時の非常ボタン(パトロールを呼ぶ為の)。
- 仮眠を取る時、困る人もいる。
- 昼夜間とも比較的容易に館内に入れるし、あまりに安全に配慮されていると思えない。特に夜間など、女性がひとりで研究室にいる時に、不審者が入ってこないか不安にならないだろうか？入館時のセキュリティチェックを行った方が良いかと。
- 一人当たりの部屋の面積が狭い。

### 27) その他、学内の施設・環境に関連して上記以外の問題.

- シャワーや仮眠室を充実させてほしい。
- 喫煙所などの休憩所が室内にない。
- 女子寮の少なさ。
- 防犯対策、セキュリティ。○事故や事件の通報先が警察ではなく警備掛になっている。守衛が人の出入りをもっと厳しく見るべき。今の状態では誰でも入れる。
- おしゃれなライトよりも実用的な外灯を設置する方が先決だと思う。○東京大学自体の構内が若干夜間に暗いと思う。
- 大学の研究室は必要以上に拘束時間が長すぎる。
- 女性なのに研究室に常時泊まりこんでいる人がいること。
- 施設はちゃんとしてる。

## E. 女性の社会参画について

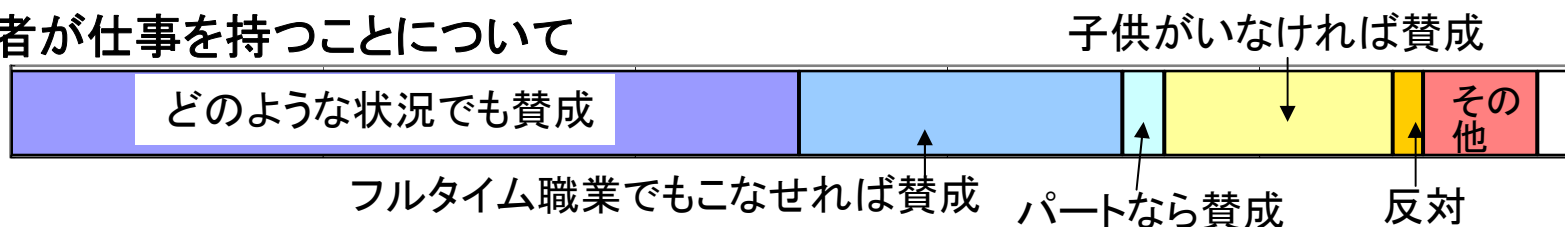
### 28) 女性が仕事を持つことについて



その他

- 子供が小さいうちは夫婦どちらかがパートになるべき。
- 子供を見る家族がいるなら賛成。
- 産休、育休以外の時期は賛成。
- 育児に支障がなければ賛成。○男性が家事、子育てをするなら賛成。
- 状況次第。○家事etcと両立可能ならば賛成。○仕事に向いていれば賛成。○本人次第。

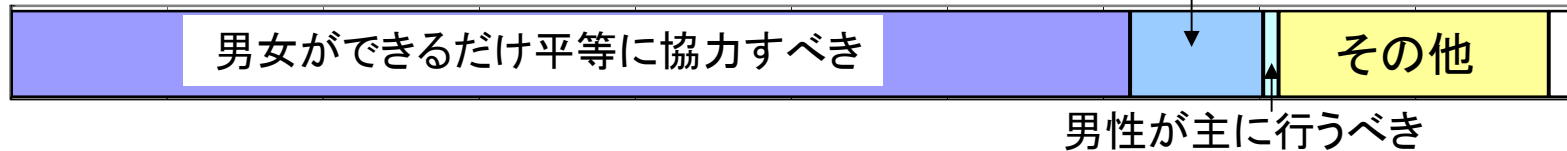
### 29) 配偶者が仕事を持つことについて



その他

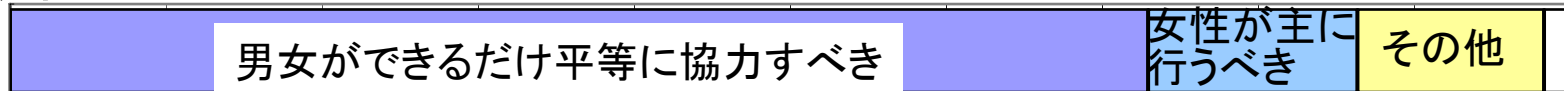
- 時間帯が深夜でなければ良い。男女共に働きすぎでは、家庭を保てないと思う。
- 自分(夫)が家事育児に専念することが認められれば賛成。
- 出産とある程度までの育児の期間免除されるなら、どのような仕事でもOKだと思う。
- 子供を親に見てもらえるなら。
- 将来の職業、収入、子供の数による。
- うまくコミュニケーションがとれれば。
- どちらかが家事、育児をこなせれば。
- 相手の自由。○状況次第。○仕事に向いていれば賛成。○わからない。

### 30) 家事の分担について



- その他
- 男女の仕事量を等しくするのではなく、個人の事情に応じて分担を決めるべき。
  - 家事に限らず、全体の中で分担を考えるべき。その結果家事を一方的にする、してもらうことはありうる。○したい方がすべき。双方合意があれば任意の比率でよいのでは。
  - できる方がやるべき。結果として平等でない場合もあると思う。
  - 個々の家庭によって決める問題。○それぞれの家庭のスタイルでいいと思う。
  - 性別にとらわれず、各自が得意とする家事をすれば良い。
  - 女性の方が慣れていないかもしれないが、男性も協力したほうがよいと思う。○適材適所。
  - 互いの忙しさにあわせて、日々調整。
  - 収入と反比例に行く。○仕事の忙しさ、収入に応じて分担。
  - 仕事を持たない方が主にやるべき。○暇のあるほうがやる。○家にいる人間がやるべき。
  - 家庭と仕事を足し合わせて、平等な量負担すべき。
  - 相談してどちらかが主に。

### 31) 育児の分担について



- その他
- 女性がした方がいい時期は女性が行った方がよい。その方が子供のためにもよい。
  - 父:母=3:7ぐらいで。
  - 男女の仕事量を等しくするのではなく、個人の事情に応じて分担を決めるべき。
  - 育児に限らず、全体の中で分担を考えるべき。その結果家事を一方的にする、してもらうことはありうる。
  - それぞれの家庭のスタイルでいいと思う。

## 32) 将来、育児休業制度を利用して育児を分担したい

YES

74

22

NO

4

### NOの場合、その理由は？

- 長期間研究から離れた人が研究に復帰するのは非常に困難(先端の流れにのれない)。
- 本業に支障をきたすと考えられ、そうなるとう育児そのものが負担に感じられてしまうと思うので。
- 男女が共に研究者である場合、優れた研究を行っているほうが育児、家事の負担を少なくし、一方のみが研究者である場合、他方が育児家事を多く負担することに同意しないならば結婚するべきではない。
- 1年間研究者を休むことは、他の仕事を休むことよりも大きなブランクとなるため。○女性はしかたないが、男が育児を理由に休業すべきではないかと思う。もし自分がシングルファーザーになったとしても託児所等を利用して仕事は休まないつもり。
- 「男女差別」云々の話と全く関係なく、単にアカデミックポストの転職が厳しすぎるから。休めば研究が滞り、職がなければ何の意味もなくなってしまう。
- 法律で決まっても実質的には不可能。
- 男性は一家の大黒柱であることが多いため、男女ともにこの制度を使い休業した場合、今の社会では一家ともに路頭に迷う危険性があるから。
- 男性が育児休業する事に、社会的なコンセンサスが得られていない為。○社会が許さない。
- まだ活用してる人が少ないので目立つ。○制度はできていても、活用できる環境にないから。
- 本当に育児が大変な時は仕方がないが、そうでもない時にまで休んでしまうとサボリのような感じがしてしまうため。
- 育児＝男女ともにするものだから、男性が育児休業を取れる職場の環境作りが大事だと思います。男性が育休をとれる社会。○活用ではなく強制(特に男性に強制)でなくては意味がない為。
- 育児は女性が主に行うべきと考えるから。○強い父親＋身近な母親というのが子供の教育に一番良いと思うから。
- 配偶者の意見に依る。○男は男、女は女。個人が自分で決めること。

### 33) 女性の社会参画についての考えは、自分の育った家庭環境が影響していると思う

YES

41

58

NO

#### YESの場合、どんな影響か？

○母が仕事を持っていたので女性も仕事をすべきと考える。 ○母が働いていたので、その方が女性も輝いていると感じる。

○両親共に働いており、その中で育児を双方で出来る限りのことをしてくれていたと考えています。そして自分もそうありたいと考えています。

○母は仕事をずっと持っていた。少し寂しい時も合ったが全体的に見てたくさん愛を受けたし、べったりしているよりも社会で活躍する母を見ていた方が、精神面での自立が早まったし、確かになった気がする。

○父が休日などの空き時間に比較的よく家事を行っていたという印象がある。

○両親とのコミュニケーションが早朝と夕方以降しかなかったため、情が多少薄かったかもしれない。

○私の家庭は両親が夫婦共働きだったので、よく家に一人残された場面があった。

○共働きであったため、祖母が育児をしていた。それによって多少甘やかされて育った感がある。

○子供の頃、母親が仕事で家をあけることが多くさびしかった。

○母親が専業主婦だった。○小さい頃は母親が側にいる時間が長い方が落ち着くと感じた。

○私は専業主婦の母に育てられたので、母と一緒にいる時間が長く安心できた。父と過ごす時間は足りなかったので、父性について学ぶ事はなかなかできなかった。

○家に母がいたおかげで安心して過ごせたし、人格形成において非常にプラスになっていると思う。○母は好んで専業主婦をしていたように思うし、父も仕事をしながらも面倒を見てくれた。

○母が専業主婦で育児とか家事を全て行い大変そうだったので、少しは分担した方がいいと思った。

○自分の家は母親が専業主婦であったので、もっと公平にすべきだと思う。

○父が総論、一般論として女性が働く事を奨励しながらも、母に対しては必ずしもそうではなかった点は改めるべきであると思った。○父親が家事をしなさ過ぎたと感じるので、反面教師として。

## F. 進路等について

### 34) 進路や就職を考える上で、最も尊重したいこと



その他

○同じ志を持つ上司の下、同じ志を持つ仲間と部下と共に働きたい。○子供がいれば子供、いなければ配偶者。○全部。○仕事以外の時間が充分とれるか否か。○その時々において総合的に判断する。○自分の意志。○自分の夢

### 35) 就職の時、性別の違いが影響する

YES

67

30

NO

2.3

#### YESの場合、どんな影響か？

- やはり女性は必然的に出産、育児に関わらねばならないというのが社会的通念となっているので、企業は女性を採用したがる。また、昇進しにくい。○依然として男女で雇用の差が存在しているので。○女性がCreativeな職、特に研究職につくことに対する社会的冷遇。
- 未だに男性中心で女性は補助との観念がある程度残っているので、女性は幹部になりにくいこと。
- 職種によって男女どちらかが適任という実務的なことは雇い主は考えざるを得ないと思う。
- 職種によっては性別で向き不向きがある。○現状では男女によって仕事の性質が分けられている。
- 集団で見た時、明らかに男女で興味を持つ分野に差があるように見えるので。
- 男性は肉体労働や深夜労働をいとわない傾向があるが女性には困難。(一部の)女性は給料が低くても配偶者の収入で生活できるためか、やりがいのある職につく傾向が強いのではないか。
- 男性は仕事の興味だけで決めてる傾向が強いが、女性は仕事+結婚後の予定で考える人が少なくないという印象を多少うける。

### 36) 研究職や専門職では、性別の違いが問題になる



#### YESの場合、どんな影響か？

- 同等能力の時、日本では男性が優先されている慣習のあること。
- 女性は現実問題、育児で職場を離れる確率が高いため、採用側は敬遠する場合もある。
- 出産、育児に対して研究社会自体が寛容性が足りないと思う。
- 出産に関連する期間、少なくとも女性は働けないという問題。
- 出産や結婚の際に退職や休みをとると、コストの無駄や仕事の遅れにつながる→企業にとって損になる。○女性が子供を産む場合は産休があるので、今現在は影響はやむを得ない。
- 女性が主に育児をする現状からして、そもそも研究職を目指しにくい。
- 男女の性差はなかなか割り切れるものではない。ある種の訓練によって身につくもの。日本はそのような性差について考えることはタブー視されており、性差がそのまま職種に影響しうる。
- 拘束時間が一般に長いので、夜遅くまで治安上残りにくく、体力的にも残りにくい女性は不利である。
- 観測で力仕事が必要な時、女性だと仕事にならない場合がある。
- 妊娠した場合にプロジェクトが滞ることが、女性が中心となっているときには「ない」とは言い切れない。
- 同じ能力であれば女性教官を増やすために女性が採用される。
- 現実に男性の比率が高い職場のため、様々な面で女性が特別扱いされる可能性はある。
- 「女性指導者の下に男性研究者は育たない」と言われる側面は大きくあると思う。それは男女の性質の違いから来るもので仕方がないと思う。
- 高度な内容では違いが出る。それぞれに得意な分野がある訳で問題ではない。

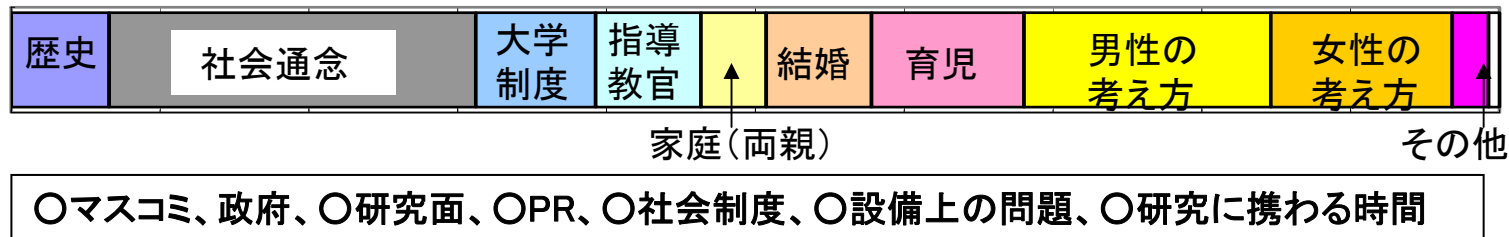


## G. 男女共同参画について

### 37) 男女共同参画の観点から、自然科学系の研究・教育機関に改善すべき問題がある



### 38) 問題の要因



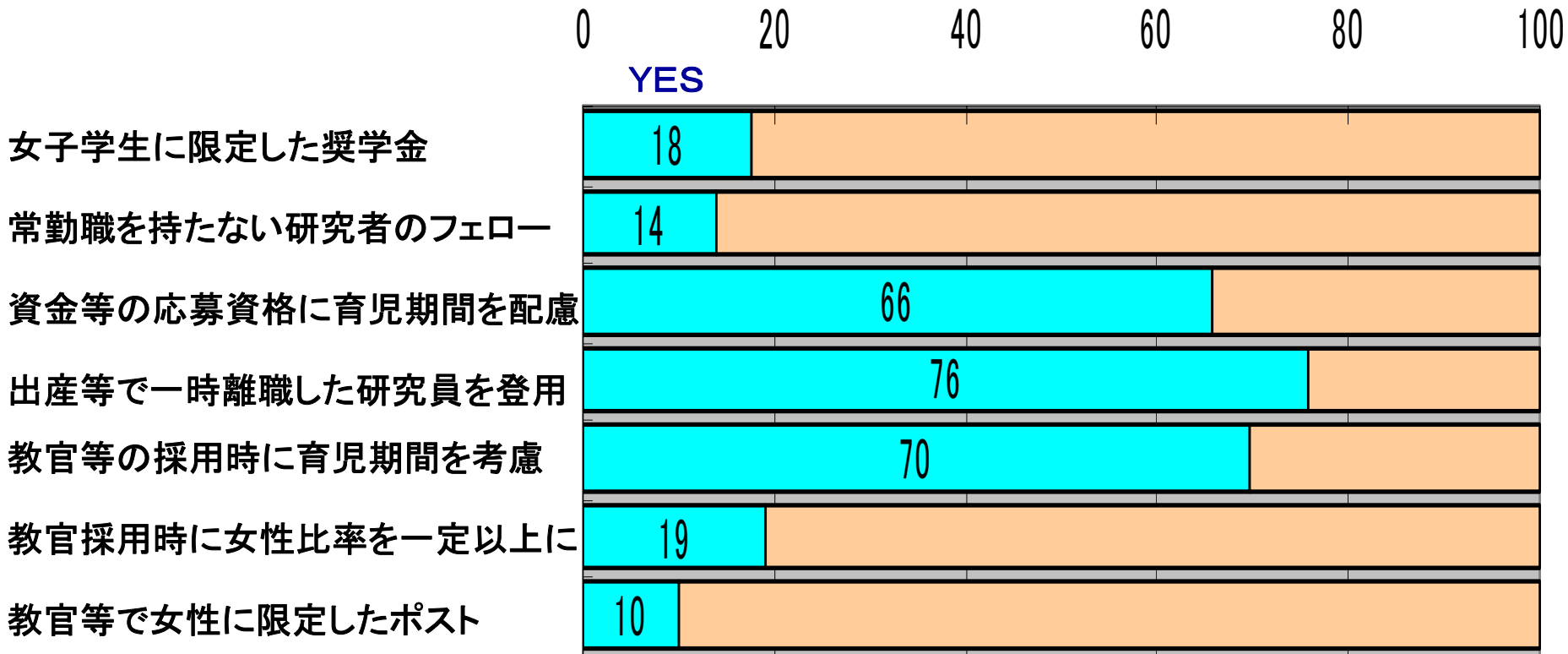
### 39) 38)の具体的な要因

- すぐれた女性研究者が育まれてこなかった歴史。女性は大きな仕事をするより家事をそつなくこなすべきであるとする社会通念に凝り固まった教官人事。それに安住し、大なるを目指さぬあまた女子学生。
- 現在にも男性、女性の間で考え方の違いが存在し、理想的な男女での採用の差がない状態を作り出すことができていない。したがって制度の面から変化を促していくのが良いと考えられる。
- 割合、大学は旧来の観念が残っているので育児に関して男性が参加するのに非協力的であり、結婚しづらい。就職難すぎて人生設計が描けない。
- もっと研究室を清潔にする(大学)。男性が家事をしないという偏見を改めるべき(男性、マスコミ、政府)。自然理科系の研究の「楽しさ」を社会にアピールし(大学、マスコミ)各家庭の方でも「そういう分野」にもう少し関心を持ち子供に話した方が良い(家庭)。他国より日本には「興味」というより「生活手段」として研究をとらえてしまう学生、研究者が多いのではないかとくに高校生に対するアピールが足りない。
- 大学入学の時点で理系を志望する女性の比率があまりにも低い。また、大学生、院生になってからも、いざとなれば結婚して家庭に入ればよいという意識で研究をしている女性が多いのも事実のようである。そういった社会通念を変化させていく事が(研究、教育機関には荷が重いかもしれないが)必要であろう。

40) 男女共同参画の推進にあたって、女性を優遇する制度等を導入するという考えに賛成



41) 女性優遇制度の中で賛成できるもの



その他: 休職、再雇用の柔軟な運用

## 42) 教官と学生との意見交換は、男女共同参画の問題解決に役立つ



## 43) 学生と教官による意見交換会への参加希望



### YESの場合、意見交換や交流方法のアイデア

○まだ問題の見通しをよく把握できない。問題の整理という意味で、事例紹介(具体的な問題の紹介)をともなったものがあれば興味を持つかもしれない。

○まずはWEBなどを用いて、効果的に女性陣、男性陣の意見を公開すべき。その上でどのような体制が望ましいのかを話し合うべき！

○ただお互いの意見をぶつけるのではなく、研究の発展に男女両方の視点が必要であることを解ってもらえるような「お題」を設定してみるとか。

○大規模な集まりでは発言しにくいので、小規模な集まりを複数会開いてほしい。

○理想論ばかりを言っても仕方がないので、参加した教官一人一人に、今本当に女性の研究員を採用する気持ちがあるかどうかを尋ねる。特に任期付きのポストや助手のポストについて。理想があるとしたら、なぜ現状はそうなっているのかを考える(～であるべき。という言葉の羅列はやめる)

#### 44) 男女共同参画に関連して述べたいこと

○今の理学系研究科の男女比率は確かに偏りすぎていて身近な環境での相談相手不足という面で女性にとってマイナスだと思います。多少女性を優遇してでも女性比率を上げた方が女性にとっての研究環境は良くなると思いますし、男性にとっても決してマイナスにはならないと思います。

○①何より第一に「女性比率の低さが、女性ばかりか男性も含めた社会全体に悪い障害、影響を及ぼす」ということをもっとアピールすべきである。今の論調の大半は「女性も平等に」というだけで社会全体を健全化するという視点、大局観が欠けている。だいたい、「女性だけが得をする」という印象を与えてしまっていては男性の支持(経済的行動)を獲得できるはずがない。②ただし、変化は徐々にとり行うべきである。女性教官の比率を急に高めれば、能力の低い教官が大量発生する危惧があり、これは社会の利益にならないのだから。

○重要な事はチャンス을公平にする事だと思う。数値目標実現のために無理して女性を優遇するのは間違い。人口の半分以上が女性だから最終的には男女比は1:1になるのが望ましいが、歴史的事情もあるので少しずつ改善を図るしかない。○個人の自由を最大限尊重する事が大切だと思います。性別によって優遇するより”平等”を期すことが大事だと思います。

○社会の各組織が男女共同参画にむけて環境の改善(例えば男性が育児休暇を取りにくい状況)をすべきであり、大学もまた例外ではないと感じます。

○研究機関で女性比率が少ないのは、今の人々が若い時に得た社会通念によるものだと思います。近年の男女共同参画の発想を受けた今の子供たちが大人になった時には自然と科学を志す女性が増えるはずなので、育児関連以外は特に今やるべき事は無いと思います。

○女子学生比率が低いのは理系研究科が責任を負う問題でない。女子高校生がそのような進路選択を行っているということを問題とすべき。○一部の組織、人間が理解した所で波及しない。もっと政府やマスメディアを利用し国民全体の理解を策るべき。

○一般社会等での企業などにおける状況と比べれば、自然科学系研究教育機関の状況は決して悪くない。研究内容の魅力が十分伝わっていないのが低い女性比率の原因だと思う。(例えば高校など初期の段階で理系に進学する女性が少ない)。

○研究職は実績主義なので成果さえ挙げれば男女は関係ないと思います。但し、育児期間に限ればやはり女性の負担の方が大きくなってしまいますので、その点は考慮する必要がありますでしょう。例えば”論文数”ではなく”論文の質”で評価するとか。家事etcはその夫婦間の問題であって、そこは配慮しなくてもよいのでは？

○問題の単純化には必要かもしれませんが、男性、女性といつもひとくくりにしてしまっただけでは全ての問題を解決はできないと思っています。色んな人がいるんですし。○男と女の比率がどうのこうのというのは事の本質を外しているように思えます。男と女という見方しか出来ていない事がそもそもおかしいような気がするのですが。

○”女性の”問題というようなフレーミングは良くないと思う。男性も家事、育児、介護に関わるわけだし、ともに働きやすい／学びやすい環境作りをするという意識が大事だと思う。

○まずは何回も議論を重ねて互いの理解を深めることが必要であると思う。○男性側の意識改革と、女性側の不満のアピールを両方から進めていかないと解決しない問題であると思う。○男とか女だとかではなく、個人が個人として尊重されることこそ重要です。○大事なものは互いに尊重し思いやる心だと思います。

○女性だけが優遇される制度ができたなら、男性がより研究職に就かなくなると思う。ただでさえあまり待遇の良い仕事でないのに、より報われてない感じが強まる。社会的な意識慣習から現在の比率に落ち着いているので、もし女性の比率を高めればその様な意識の変化から自然に変化していくべきだと思う。

○男女共同参画に関しては、機会を男女均等にすることが重要なわけで、その結果の数値(学生、教官の男女比等)だけをみて話す事はナンセンス。特に女性優遇措置を取る事が本当に男女共同参画のためになるとは到底思えない。この計画に関して、機会の均等という視点を全体に考えるように計画の根本から見直していただきたい。

○社会云々よりも、まず個々の志の問題のように思う。海外との比較なんて無意味。なぜ女性比率をあげる必要があるのか？比率を上げるための制度もナンセンス。男社会が女性の社会進出を妨げているわけではなく、女性だからという甘えが女性にはあるから社会進出しないだけ。それは決して悪い事ではなく、個人的には大好きです。

○教官比率を学生比率なみにするのは良いと思うが、ポジティブアクションは取るべきではない。育児休暇は男性にこそ認めるべき。実力に見合わない登用はお互い不幸になる。

○無理に手を加えて優遇するのは不自然で、必要なのは男性女性ともに相手方の主張を聴いて、理解し、受け入れることではないでしょうか。同等異質なれば、男女それぞれに向き不向きもあり、集団内で偏りが生じてしまうのも無理からぬことではないですか？手を加えて半々を目指すのが理想とは思えません。

○他国において”男女共同参画”を実現した結果、社会の住みやすさがどのようにかわったのかをプラス面、マイナス面の両方を含めて客観的に吟味し、それから日本にあった方法を考えてもらいたい。「自分達が伸びやかに生きたい」という願望が果たして未来のためになるのかどうか、アメリカのような失敗した社会を参考にするのはよして欲しい。

○人間には男性女性それぞれ特有の性質があるから、それぞれ持ち味を発揮できる職業が有るはず。どの職業でも平等を考えるのではなく、機会は均等にしておく事が大事だと思う。将来全力を尽くしてこの道に残ろうと考えて博士課程に進む人は女性には少ない。結婚して逃げたり途中でやめたりしてもいいからとりあえずやりたいことを好きにやるという女性が多い。研究は現実的には過酷な道であるから、それなりの覚悟と努力で進んでいる男性が多い。同じ実力ならどちらをとってもいいが、そういう男性を抑えてあえて女性をある一定以上とろうと考えるのは逆差別である。ただし出産、育児分は女性にハンデがあるので、それをどうするかは考えるべき。一生働く覚悟を持っている男性を忘れてはならない。

○このアンケートに底流する一つの暗黙の了解として、まず「女性の比率を上げる」という目標が最優先されている。しかしこれはおかしい。女性の比率を上げたほうが、社会の為になるから女性率を上げるのであって、最優先させるべきは「社会をもっと良くするには？」だと思う。女性が好む職種や仕事内容も偏りがあるはずだからいたずらに数値目標にこだわるのもよくない。女性に研究職に就く機会を与えるという考え方ではなくて、職に就く機会を奪っているものを取り除くという考え方でいきたい。

○完全に否定しないが、フェミニズムの強制に繋がる部分があるのでこういったプロジェクトは好ましくない。